

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-3	高等学校	地理歴史	日本史B	1～3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
7実教	日B312	日本史B 新訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

教科書の編修にあたっては、学習指導要領解説と検定基準の改正を踏まえ、豊富な資料と平易でわかりやすい本文記述により基本的な歴史事項をおさえることに配慮した。そのうえで、より深い日本史学習を可能にするため、詳細な事項解説などにも配慮し、多角的に学習することができるように本文全体をまとめた。そのさい、地理的条件との関連付けに加え、日本の歴史を世界の歴史と関連付けながら理解させるよう工夫した。

本文記述を様々な観点から補うために側注を充実させ、関連するコラムを随所に設定することで幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにした。また、変形B5判の特長を活かし、地図や写真・図版を豊富に掲載することで、学習する時代の歴史的背景や特徴をイメージ豊かに学習できるようにした。

さらに、生徒がさまざまな図版資料や統計資料を活用しながら、歴史的思考力を培うことができ、主体的・対話的に深い学びを可能にするために、新たに「調べてみよう」として興味・関心を喚起するような9つのテーマを設定した。

2. 編修の基本方針

○教育基本法2条の目標を達成するため、次の通り編修した。

- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、日本史学習をより深めることができるよう詳細な記述を心がけた。学習する時代の概観を把握するため、原始・古代、中世、近世、近現代の各扉に、各章で学ぶ内容を概括的にまとめた（第1号）。
- ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、歴史事象を多角的に検討することができるように、為政者の立場からだけでなく、民衆の視点からの叙述にも配慮した。また、生徒が自ら主体的に学習できるように、新たに「調べてみよう」というコラムを9箇所を設定した（第2号）。
- ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、各時代で活躍した女性やその時代の女性像をイメージできるような記述を心がけた（第3号）。
- ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、日本の自然遺産などを取り上げた。また、産業の発達にともなう社会問題の発生とその克服、核兵器廃絶の課題とその取り組みなどを取り上げた（第4号）。
- ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、日本の自然遺産や文化遺産を写真と解説を多用することに配慮した（第5号）。

3. 対照表

(例)

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する観点から、日本全図を掲載して旧国名と都道府県名を対照させ、その変遷を概観できるようにした(第5号)。 ・同様の観点及び自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から「日本の世界遺産」を日本地図の中で概観した(第4・5号)。 	古代行政区 分図と日本 の世界遺産
歴史と資料	資料を読み解く <ul style="list-style-type: none"> ・自主及び自律の精神を養う観点から、図像史料(伴大納言絵巻)を題材に、主体的な学習および調査の方法を例示した(第2号)。 	p. 5
第1章 第2章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、人類の誕生など考古学の最新成果を取り入れ、世界の中の日本を大陸との関係から取り上げた(第1号)。 ・生命を尊び、自然を大切にする態度を養う観点から、縄文時代・弥生時代の人々の暮らしをイメージできるような遺跡や遺物の写真を多数取り上げた(第4号)。 	p. 10 p. 18
第3章	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、律令制や飛鳥・天平文化と東アジア文化の関係を詳述した(第5号)。 ・職業及び生活との関連を重視する観点から、古代の土地制度と農民の暮らしに焦点をあてた(第2号)。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、「調べてみよう 律令制度とはどのようなものなのか」を設定し主体的学習を可能にした(第1号)。 	p. 34 p. 45 p. 52
第4章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、主題学習「古代の土地制度」を設定し、主体的学習を可能にした(第1号)。 ・国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、遣隋使、遣唐使などによる大陸文化の摂取の後に花開く国風文化の学習を充実させた(第5号)。 	p. 66 p. 68
第5章	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、院政期の文化が全国に波及したことを写真と地図で取り上げた(第5号)。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、主題学習「中世の仏教」を設定し、主体的学習を可能にした(第1号)。 	p. 83 p. 106
第6章	<ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視する観点から、産業の発達や惣村の発展と人々の生活の向上を取り上げた(第2号)。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、「調べてみよう 中世の人々は神仏をどのように感じていたのだろうか」を設定し、主体的学習を可能にした(第1号)。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、室町時代の文化が現在の生活に及ぼした影響を取り上げた(第5号)。 	p. 117 p. 121 p. 127
歴史の解釈	中世の町の変化を調べる <ul style="list-style-type: none"> ・自主及び自律の精神を養う観点から、考古資料や文献資料だけでなく習俗や芸能を題材に、主体的な学習及び調査の方法を例示した(第2号)。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、地域社会の発展を「祭り」を題材に取り上げた(第5号)。 	p. 136
第7章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、ヨーロッパ人來航が日本に与えた影響を詳述した(第1号)。 ・国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、朝鮮通信使や朱印船貿易など他国との友好関係を取り上げた(第5号)。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、「調べてみよう 有田焼はヨーロッパの焼物にどのような影響を与えたのか」を設定した(第5号)。 	p. 140 p. 163 p. 171
第8章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、幕藩体制の確立から動揺、諸改革を詳述した(第1号)。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、江戸中・後期の文化を取り上げ、豊かな時代像を詳述した(第5号)。 	p. 172 p. 204 p. 212

	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、主題学習「近世の学問の流れ」を設定し、主体的学習を可能にした(第1号)。 	
歴史の説明	<ul style="list-style-type: none"> 近世の結婚と離縁を調べる 自主及び自律の精神を養う観点から、さまざまな歴史の解釈がありうることを結婚や離縁という身近な習俗を題材に、主体的な学習および調査の方法を例示した(第2号)。 	p. 214
第9章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、開国前後の世界情勢と国内状況を踏まえ、国民国家形成の過程を詳述した(第1号)。 職業及び生活との関連を重視する観点から、文明開化期の世情を取り上げ、人々の生活の変化を詳述した(第2号)。 	p. 218 p. 238
第10章	<ul style="list-style-type: none"> 正義と責任、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、自由民権運動の展開を詳述した(第3号)。 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、足尾鉍毒事件を取り上げた(第4号)。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、近代科学の発展に寄与した研究者の業績を紹介した。 	p. 242 p. 268 p. 272
第11章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、第一次世界大戦頃の世界情勢と護憲運動が盛り上がる国内状況を踏まえ、産業の発展と都市化する社会の変化、政党政治の展開などを詳述した(第1号)。 正義と責任、男女の平等という観点から、女性の経済的自立や母性保護の問題、参政権獲得へのあゆみなどを取り上げ、現在につながる男女平等の思想について詳述した(第3号)。 	p. 276 ～ p. 289 p. 285
第12章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、1930年代の世界及びアジア情勢と国内状況を踏まえ、十五年戦争に突入していく日本の姿を詳述した(第1号)。 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、日中戦争・アジア太平洋戦争の実相を詳述し、平和について主体的に考察させることをめざした(第5号)。 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、主題学習「日本植民地下の台湾・朝鮮の人々」を設定し、主体的学習を可能にした(第1号)。 	p. 300 p. 305 p. 322
第13章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、戦後の民主改革や日本国憲法の制定過程、教育改革などを詳述した(第1号)。 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、国際連合の役割に触れ、冷戦時の東西対立やサンフランシスコ平和条約による日本の国際社会復帰及び日米安保条約締結の経緯などを詳述した(第5号)。 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、高度経済成長期の公害問題と、その対策としての公害対策基本法の制定や環境庁の設置などを取り上げた。また、同様の観点から核兵器廃絶の課題とその取り組みを詳述した(第4号)。 豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養う観点から、阪神・淡路大震災や東日本大震災時のボランティア活動などを取り上げた(第1号)。 	p. 324 p. 332 p. 338 p. 358 ～ p. 359
歴史の論述	<ul style="list-style-type: none"> 地域の戦争遺跡を調べる 自主及び自律の精神を養う観点から、歴史の論述を課題として、身近な地域の戦争遺跡を題材に、主体的な学習および調査の方法を例示した(第2号)。 	p. 360
後見返し	<ul style="list-style-type: none"> 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、中世及び近世の産業と交通などを詳細な地図で説明した(第5号)。 	中・近世の産業と交通

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第五十一条三項（社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。）に即して、本文記述や特集など教科書全体を通じて、国際社会に生きる高校生が日本の歴史を世界の歴史と関連付けながら理解し、現代社会が抱える課題についても考察することができるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-3	高等学校	地理歴史	日本史B	1～3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
7実教	日B312	日本史B 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「日本史B」が標準単位数4単位の科目であり、学習指導要領の目標に「地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、」「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とあることを踏えて編修した。

また、学習指導要領解説と検定基準の改正を踏まえ、豊富な資料と平易でわかりやすい本文記述により、生徒が興味・関心をもって日本史を学習できるよう、以下の点に配慮した。

- (1) 多岐にわたる歴史事象を精選しながらも、できるだけ多角的・多面的にとりあげることで、全体の流れの中で一つひとつの歴史事象を客観的・総合的に理解できるよう努めた。その際、文章表現はできるだけ平易なものとなるよう心がけた。
- (2) 本文記述の理解を促すために、側注を多用し充実させた。また、最新の研究成果をできるだけ取り入れるよう努めた。
- (3) 地図や写真など図版を豊富に掲載することにより、歴史をイメージ豊かに学習できるようにした。
- (4) 系統的な学習が必要なテーマを、主題学習「古代の土地制度」「中世の仏教」「近世の学問の流れ」「日本植民地下の台湾・朝鮮の人々」として取り上げ、深めた学習ができるようにした。
- (5) 歴史事項の暗記ではなく、生徒が主体的・能動的に学習に取り組み、自らの歴史認識形成をめざして、通常のコラムとは別に「調べてみよう」というコラムを9箇所了新設した。
- (6) 「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」では、身近なテーマを設定し、その調査方法を例示するなどして、生徒自らが調査・研究するきっかけとした。

2. 対照表

(例)

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
原始・古代 歴史と資料「資料を読み解く」 第1章 日本のあけぼの 第2章 水稻農業の開始と社会生活の進展 第3章 東アジア文化の影響と律令制度の成立 第4章 摂関政治と国風文化	(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料 イ 日本文化の黎明と古代国家の成立 ウ 古代国家の推移と社会の変化	p. 5～8 p. 10～17 p. 18～33 p. 34～55 p. 56～72	26
中世 歴史の解釈「中世の町の変化を調べる」 第5章 中世社会の成立と文化の新機運 第6章 武家社会の展開と室町文化	(2) 中世の日本と東アジア ア 歴史の解釈 イ 中世国家の形成 ウ 中世社会の展開	p. 136～138 p. 74～107 p. 108～135	25

近世 歴史の説明「近世の結婚と離縁を調べる」 第7章 幕藩体制の展開と近世の文化 第8章 幕藩体制の動揺と文化の成熟	(3) 近世の日本と社会 ア 歴史の説明 イ 近世国家の形成 ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容	p. 214～216 p. 140～171 p. 172～213	32
近・現代 第9章 近代への転換 第10章 近代国家の形成	(4) 近代日本の形成と世界 ア 明治維新と立憲体制の成立 イ 国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ 近代産業の発展と近代文化	p. 218～251 p. 252～261 p. 262～275	23
近・現代 第11章 両大戦間の日本と市民文化 第12章 十五年戦争と日本	(5) 両世界大戦期の日本と世界 ア 政党政治の発展と大衆社会の形成 イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 ウ 第二次世界大戦と日本	p. 276～299 p. 300～323	18
近・現代 第13章 現代の日本と新しい文化 歴史の論述「地域の戦争遺跡を調べる」	(6) 現代の日本と世界 ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化 ウ 歴史の論述	p. 324～344 p. 345～359 p. 360～363	14
計			138